

気象研究ノート第237号 「気象レーダー60年の歩みと将来展望」発刊のお知らせ

気象研究ノート編集委員会

還暦を迎えた日本の気象レーダーの歴史全体を振り返る企画として、2015年の気象学会春季大会で専門分科会「気象レーダー60年の歩みと将来展望」を開催した。終了後、折角の講演資料が散逸することは残念であるということから、より多くの方々に声をかけて気象研究ノートとして文字に残すこととした。でき上がってみると、各時代の社会の要請や科学的興味に応じて、レーダーメーカー、行政、大学、研究機関がそれぞれの立場で切磋琢磨しながら気象レーダーを開発し利用してきたことがひしひしと伝わる、読み応えのある内容となった。本研究ノートの原稿を依頼するにあたって、各著者には統一的な書きぶりをお願いすることはしなかった。このため、本研究ノートの内容は、時間の流れに沿ったもの、人物中心のもの、トピックス中心のものなど節ごとに内容が異なっており、気象レーダーばかりではなく「レーダー気象学」の歴史をたどる読み物としても興味深いものとなった。現在及びこれから気象レーダーに関与する若い人達には、今後の日本の気象レーダーの発展の行方を見据えるため、過去の気象研究ノート第90号(1967)、第112号(1972)、第139号(1980)、第200号(2001)とともにこの研究ノートを参考にしていただくことを希望する。



【目次】

はじめに

第1章 メーカーにおける気象レーダーの開発

第2章 気象レーダーの現業利用

第3章 大学における気象レーダーの研究・利用

第4章 研究機関における気象レーダーの研究と利用

第5章 気象レーダーの発展の歴史概観

おわりに

【編集】石原正仁・藤吉康志・上田 博・立平良三

【執筆者一覧(50音順, カッコ内は執筆した章)】

井口俊夫(3, 4), 石原正仁(2, 4), 岩波 越(4),

上田 博(3, 5), 牛尾知雄(3), 大石 哲(1, 3),

大島竜二(2), 大森志郎(2), 勝俣昌己(4),

川崎将生(2), 楠 研一(4), 國友 優(2),

小西啓之(3), 小林文明(3), 佐々浩司(3),

佐々木佳明(3), 佐藤英一(4), 佐藤晋介(3, 4),

佐野哲也(3), 篠田太郎(4), 鈴木 修(4),

鈴木博人(2), 砂田憲吾(3), 高木敏明(1),

高橋暢宏(3), 高橋日出男(2), 武地美明(1),

立平良三(2), 塚本尚樹(2), 土屋修一(2),

中井専人(4), 中北英一(1, 2, 3), 中村健治(4),

長屋勝博(1), 浜津享助(1), 深見和彦(2),

藤吉康志(3, 5), 本田明治(3), 真木雅之(4),

松田知也(1), 道本光一郎(3), 村田文絵(3),

本谷 研(3), 山内 洋(4), 山下克也(4),

米山邦夫(4), 和田将一(1), 渡邊 明(3)

【仕様】B5判 272頁(本文), 2018年7月20日発刊

【価格】会員:4,100円, 会員外:6,200円